
ドラゴンボールZ セルの世界

菅原 公一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラゴンボールZ セルの世界

【Nコード】

N7715F

【作者名】

菅原 公一

【あらすじ】

セルの説明によると、セルのいた未来は、「未来からトランクスが少なくとも一度は来ている」のに「未来ではトランクス以外のZ戦士が死んでしまった」世界ということであり、また、この世界では、どういう手段を取ったのか、「17号と18号が倒されている」という状態にある。この小説は、そのどういった経緯を辿ったか不明の世界に対する一つの答えである。

はじめに

セルの説明によると、セルのいた未来は、【未来からトランクスが少なくとも一度は来ている】のに【未来ではトランクス以外のZ戦士が死んでしまった】世界ということであり、また、この世界では、どういう手段を取ったのか、【17号と18号が倒されている】という状態にある。

この小説は、そのどういった経緯を辿ったか不明の世界に対する一つの答えである。

まず、セルの説明をそのまま信じると、【トランクスが未来から出現し、フリーザとコルドとその軍団を倒した】という事実は存在したようである。

つまり、【トランクスがこれから未来の世界で人造人間が出現してそれによりZ戦士が死んでしまうということは伝えている】はずであり、原作同様、この世界でもZ戦士は修行に励んでいたはずである。

それなのに、【未来ではトランクス以外のZ戦士が死んでしまった】という状態となる。

セルは、原作の中で、自分の発言で、原作の世界のセルを殺させてしまっている。なので、この世界にも未来からセルが来ていたということも考えられない。

このことから、可能性が高いと考えられるのは、【トランクスが未来から過去へ一度しか来ていない】という世界ではないだろうか？
原作でも触れられている通り、タイムマシンは使用されることにパラレルワールドを生んでいく。

ただ、【Z戦士に未来のトランクスが加わらなかった】だけで、
あんな恐ろしい世界に変わるものなのだろうか？

第1話 ドクター・ゲロ

約3年前、トランクスという少年が出現し、フリーザとコルドの勢力を一瞬のうちに滅ぼす。

トランクスは、未来から「Z戦士が人造人間により殺されてしまう」ことや「孫悟空がウィルス性の心臓病で死んでしまう」ことなどを伝えるために、そこへ来ていた。

その事実を知らされたZ戦士たちは、各自、修行に励んでいく。孫悟飯と孫悟空とピッコロも、ともに修行をしていく。

そして、人造人間が来ると予言された現代。事件が起きたのは、南の都であつた。現れたのは、20号と19号。

人造人間たちは、ヤムチャの生体エネルギーを吸収し、心臓病で体が弱っていた孫悟空にも勝利するが、3年間の修行により超サイヤ人となったベジータにより、19号は破壊され、20号も逃走する。

その人造人間20号こそ、人造人間たちの生みの親であるドクター・ゲロであつた。

元レッドリボン軍の科学者であるドクター・ゲロが人造人間を制作したのは、孫悟空を殺すためであつた。いや、初めは単なる強さへの探求で、それが格闘家とは別の形であつただけかもしれない。しかし、その研究場所であつたレッドリボン軍を潰されてからは、その目的は復讐へと変わっていた。

追い詰められたドクター・ゲロは、しかたなく、自分に従わない

不完全な人造人間17号と18号を起動する。だが、ドクター・ゲロは、17号と18号に殺されてしまう。17号と18号は、Z戦士を一蹴し、16号を起動し、孫悟空を殺すという遊びを開始する。

第2話 ヤムチャ

起動した17号・18号・16号は、皮肉にもゲロの命令通り、孫悟空の命を狙っていた。

そんな中、ベジータだけが・・・

「この俺をコケにしゃがって・・・カカロットと闘うだと？フザケやがって！」

と怒りを燃やしていた。

ピッコロたちは、心臓病で寝込んでいる孫悟空をカメハウスに移すことを提案し、その間に人造人間を倒す・もしくは、その弱点を探すという策に出る。

心臓病で寝込んでいる孫悟空は、未来から来たトランクスに薬をもらっていたとはいえ、それを発症時まで常用していなかったため、治るのにはまだ時間が必要であった。

そんな中、先の20号との闘いで、戦線を離脱していたヤムチャは、他のZ戦士の気が弱くなっているのを気にするが、自分もそこへ向かおうとすることはなく、外に出るのもチチに頼まれた買出しくらいとなっていた。しかし、ヤムチャは、その途中、ある人物を発見する。

「あいつは、桃白白！こんなところで、何をしているんだ？」

そこにいたのは、鶴仙流の流派を汲むかつての強敵桃白白であった。

「おい、桃白白！ここで、何をしている？」

「む？それは、亀仙流の胴着！それに、私の名を知っているとは・・・

・貴様、何者だ？」

「知らんのか、亀仙流のヤムチャだ。その名前を胸に刻んでおけ！」

「なるほど・・・亀仙流か・・・暗殺の仕事でここへ来ていたが、物のついでだ。亀仙流への復讐、ここで果たさせてもらおう。」

「フ・・・あの頃の天津飯にも勝てなかった男が・・・か・め・は・め・波！」

「む！」

桃白白は、それを避け、ある構えをした。

「スーパードン波！」

「天津飯に敗れたこんな技・・・ハア！・・・アレ？・・・ぐあ・・・」

ヤムチャは、気合いでそれを消そうとしたが、ヤムチャにはそんなことはできなかった。

「くっ・・・」

「ほう、まだ、立つか・・・」

「久々に見せてやるぜ！・・・真狼牙風風拳！！」

ヤムチャの影が狼に変わった。

「影絵か・・・笑わせる。負け犬牙風風拳の間違いだろう？」

桃白白は、それを避け、ヤムチャのコメカミに舌を突き刺し、腕のナイフで心臓を突いた。

「亀仙流も落ちたものだ・・・」

第3話 クリリン・ピッコロ・孫悟空・亀仙人

ヤムチャの死は、Z戦士の中に波紋を与えた。

ヤムチャは、歴代の亀仙流の格闘家の中で最もセンスがなかったとはいえ、時代の流れから師に恵まれ、それなりの強さは持っていた。

そのヤムチャが死んだ。

Z戦士たちの多くは、人造人間の仕業と考え、そこに急行する。

そこにはもう誰もいなかった・・・

ヤムチャの死を、戦力を分散させる罠かもしれないと考えたクリリンとピッコロは、カメハウスを守っていた。

「いいのか？ピッコロ？」

「何がだ？」

「神殿だよ。」

「どこにしようと同じだ。神のやつ、融合する気もないらしいからな・・・」

「確かに、どこにいても一緒か・・・」

「もし、これが罠なら、ここに来る人造人間は、ヤムチャを殺したやつを除いて、2体だろう。」

「2体・・・俺たちだけで大丈夫かな？」

「やるしかあるまい・・・」

「ここがカメハウスか？」

「な？俺の選んだ道であってただろ？」

「・・・！！・・・人造人間が3体！・・・どうなってるんだ・・・」

「貴様、どうやって、ヤムチャを殺した？」

「ヤムチャ、誰だそれ？」

「ヤムチャのデータは保持している。ヤムチャ・・・天下一武道会では必ず本戦第一回戦で負ける男・・・サイヤ人との戦いでは栽培マンによつて殺されたただ一人の存在・・・戦績などを見る限り、そこにいる武天老師にも勝てないと推測される。」

「そのヤムチャだ！」

「それくらいレベルのヤツなら、どこで転んで死んでもおかしくないだろ？」

「何を！」

「いや、ヤムチャさんなら、ありえるよ。昔からよく、ドジしてたから・・・」

3体の人造人間を前に、クリリン・ピッコロ・病床中の孫悟空・チチ・亀仙人・牛魔王・ウーロン・プーアルは殺されてしまった。ピッコロの死により、同時に、神様も死んでしまい、ドラゴンボールも使えなくなってしまう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7715f/>

ドラゴンボールZ セルの世界

2010年10月13日13時47分発行